[5] 2009 年 3 月国立公文書館蔵　下総国絵図　調査報告

National Archives of Japan Survey: 2－Pictorial Maps of Shimôsa

調査概要　梅田千尋

１．元禄下総国絵図　特 083-0001-34　田中葉子
調査所見／所見項目表／所見地図／紙継図

２．天保下総国絵図（紅葉山本）特 083-0001-35　小関悠一郎
調査所見／所見項目表／所見地図／紙継図／針穴図

３．天保下総国絵図（勘定所本）特 083-0001-36　梅田千尋
調査所見／所見項目表／所見地図／紙継図／針穴図

調査参加メンバーと分担

担当	内容	メンバー
統括		杉本史子*
城・陣屋	城・陣屋箇所の写真を撮影、文字を判読。	国木田明子（神戸市立博物館）・小野寺淳(茨城大学)・横山貴文(筑波大学大学院)
科学史的調査	一里塚間の距離を計り縮尺・精度を確認。天保勘定所図の鉛筆線の方位を測定。	佐藤賢一(電気通信大学)・梅田千尋*
水路文字	水路・海岸などに描かれた里程などの文字を判読。	小関悠一郎*
新田・河岸・牧・台地・針穴	牧・台地・山などの地形表現。新田の有無。針穴の有無と位置、形態を確認。	上杉和央(京都府立大学)・杉森玲子*・田中葉子*
紙質・紙継など構造検討	紙の大きさ・紙端始末・料紙の紙継・裏打などの技法・作成手順を検討。	中藤靖之*・山口悟史*・橋本暁子(筑波大学大学院)
彩色	赤外線撮影を行い使用色料を分析。	村岡ゆかり*・荒井経(東京学芸大学)・降旗千賀子(目黒区美術館)・吉田直人(東京文化財研究所)

所属は 2009 年 1 月時点のもの。*は東京大学史料編纂所

調査概要

調査日時　平成 21 年(2009)1 月 14 日～15 日
場所　国立公文書館四階会議室
調査対象資料

元禄下総国絵図	特 083-0001-34	1 点	501×391 cm
天保下総国絵図（紅葉山本）	特 083-0001-35	1 点	466×362cm
天保下総国絵図（勘定所本）	特 083-0001-36	1 点	477×375 cm

調査の趣旨

国絵図は、江戸幕府が諸藩に作成させ、慶長・正保・元禄・天保の 4 度にわたって「官庫」である江戸城紅葉山文庫に収納したものである。各地の担当大名（絵図元大名）の側にも多くの控図・写図が残存しているが、経緯から考えて、紅葉山伝来本こそが正本といえる。

国立公文書館には、元禄図の原本 8 鋪、模写本 8 鋪および天保国絵図全国分 83 鋪（重複を含めると 119 枚）が残存する。（天保郷帳 85 冊等とともに昭和 58 年（1983)国の重要文化財に指定：国立公文書館 HP）

しかし、これらの国絵図のうち、元禄期・天保期の献上図すべてが残されているのは、日向国と下総国の２ケ国のみである。

今回はそのうち、下総国絵図の元禄国絵図、天保国絵図 2 種の３図を調査対象とし、同一国内での３図間での詳細な比較検討を行うことを、第一の課題とした。これにより、（1）18 世紀に藩が作成し幕府に提出した元禄図と、19 世紀に幕府自身が作成した天保図の違い、（2）幕府勘定所に保管された天保図と、将軍の文庫＝紅葉山文庫に保管された天保図の違い、が、従来に比べ格段に深いレベルで明らかになることが予想される。

また、従来の国絵図原本調査は、もっぱら九州・四国・東北地方の大国について行われてきた。関東の国絵図については、作成担当が小藩の場合が多いため、藩政史料の残存率が低く、十分な検討を行う条件を欠いている。今回下総国絵図の詳細原本調査を行うことは、この意味でも大きな意義をもつだろう。さらに、国絵図作成・調査は通常藩が担当することが多いが、下総国では藩と幕府代官が共同してあたったという点でも特徴的存在である。

科学研究費補助金・基盤（A)「地図史料学の構築―前近代地図データ集積・公開のために―」（代表・杉本史子　2006～2009 年）では、これまで高知市民図書館・ライデン大学図書館・山口県文書館・岡山大学付属図書館において、国絵図原本について、歴史学・地理学・美術史・日本画家・古文書修復家・科学史など多分野の専門家が数日間共同して、その使用材料（紙、着色材料)、仕立て方（紙一枚ずつの大きさ、継ぎ方)、描写方法（ヘラ跡、筆致、色)、内容検討の各分野から、綿密な総合調査を行ってきた。

今回は、詳細目視調査を行い、色料記録のため赤外線撮影・高精細デジタル撮影、無色描写（ヘラ跡・角筆・針穴など）記録のためにビデオ撮影を行った。なお、詳細目視調査では、使用材料（紙、着色材料)、仕立て方（紙一枚ずつの大きさ、継ぎ方)、描写方法（ヘラ跡、筆致、色)、内容検討を目視により行うものである。

調査方法

以下のように確認項目を分担して地図を熟覧した。また、各人の分担外の事項についても、適宜地図カラーコピー及び調査カードなどに記録し、集約した。

各図調査所見

【凡例】

・目視調査による各絵図の所見を絵図ごとにまとめた。

・「調査所見」は、目視調査によって得た情報を、以下の各項目に分けてまとめたものである。
① 紙拵え･･･日本画・古文書修復の観点から得られた、使用材料（紙、着色材料）・仕立て方（紙一枚ずつの大きさ、継ぎ方）についての所見。
② 地図情報･･･Ａ：保存状態や伝来過程に関わる情報、Ｂ：絵図の作成技法や描かれた手順に関する情報、Ｃ：画像・文字記載情報

・目視調査によって得た知見は、番号を付して地図上に書き込んだ。さらに各項目の詳細な内容は「所見項目表」の対応する番号を参照のこと。また、各項目の内容は、「Ａ：保存・伝来」＝黄色、「Ｂ：絵図作成手順」＝赤、「Ｃ：画像・文字記載情報」＝白（地色が薄い部分は黒）として分類し、色分けで示した。

・「紙継図」は、各図の紙拵を記録したもの。赤実線は紙の表面に表れた継ぎ目を、赤破線は継ぎ目の下になった部分を示す。

・針穴など特徴的な内容を含む絵図については、別途図を作成した。

・各図版は、それぞれの図の執筆担当者が作成した。

＊なお、本調査に基づくさらに踏み込んだ成果報告は、『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』46～49号（2009年7月～2010年4月）に「国立公文書館所蔵下総国元禄・天保国絵図調査報告①～④」として掲載予定。

Ⅰ　各図調査所見

１．元禄下総国絵図調査所見　　特 083-0001-34　　田中葉子

調査日：2009 年 1 月 15 日
架蔵番号：特 83-0001-34（下総・元禄）
図名：(表紙)「下総國繪圖　新」　東西 501×南北 391cm

①紙拵え

〇料紙
　簀の目：無。紙漉時のものではなく、絵図全体を張り込んでいた床の木目と思われる板目あり。
　布目：無
　触った感触：硬い。つるつる感あり。
　光沢：無
　紙種：雁皮・間似合か？
〇折返：有、幅 1.2cm（縦横とも）
〇裏打ち：棒継ぎで 2 回行っている（薄い)。総裏打ちなし。裏を打ってから、紙端を耳折。
　折れ目に、近代以降と思われる補強あり。
〇表紙：無
〇蔵書印：有

②地図情報

Ａ：保存・伝来

・　絵図は、折りたたみ幅東西 50cm×南北 65cm で畳まれて保管、折れ目に沿って摩滅箇所がみられる。また、剥落箇所もみられる。
・　絵図表面の端に「内務省文庫印」がある。

Ｂ：絵図作成手順

＊　推定される作成手順
（肌うら）→紙継→裏打ち 2 回→耳折り→彩色

＊描き順
　面部分の塗り順を、隣接している部分から推定すると、“上総国→海／武蔵国→海／常陸国→下野国（武蔵・下野は不明瞭）／常陸国→海”となる。陸部を塗り終わってから海部を塗ったことが確認される。なお、川をあらかじめ塗ってから隣国色を塗っているようでもあり、“青色（川）→隣国→海”の塗り順が推定される。この場合、海と川は、同じ青色に見えるが、別工程で描かれたものか。
　線部分の描き順は、“青色（川）→黒色（郡界）→赤色（街道)”と推定される。天保図においても線の描き順は同様だが、街道は川の流路をよけて描かれている。

＊針穴
確認された針穴は、武蔵国との郡境となる河川中に一箇所、新利根川河口中に一箇所の二箇所のみ。
＊マスキング
海はマスキングによって塗られ、河川は河口まで手書きとなっている。

＊色料→別項報告
国の色・村形の色は基本的に天保図と同じ。天保図の配色は元禄図を踏襲したものか。
青色：海・川は赤外下で明るい（天然藍使用か）
赤色：上総国の赤褐色は天保 2 図に比べて淡い（天保では人工弁柄を使用か）
黄色：常陸国の淡黄色は天保紅葉山と近似
緑色：松葉に岩緑青（天保 2 図では草汁系）

Ｃ：画像・文字記載情報
＊国境・郡境
匝瑳郡と上総国との境となる川の両岸に複雑な塗りわけあり。（→天保図報告を参照）

＊山林・樹木
・山の表現は、埴生郡から東側のみに見られ、薄く塗った地の上から点描を加えて描かれている。青・緑・茶・薄墨の四色よるが、色の使い分けがあるのかは不明。茶と薄墨の山のみ別紙画像上で指摘した。
・樹木の表現は、下総国全体に見られる。松の記載が見られるが、これは佐倉炭と関係があるものか、検討を要す。

＊河川・湖沼
渡し・川幅の記載あり

＊牧
牧が置かれた地域に「牧」「原」との記載や特定の樹林・動物・土手の描写は見られず、牧の表現は確認できなかった。
屏風ヶ浦海岸の岩の描き方は絵画的であり、全体に元禄図の描写は丁寧な印象をうける。

＊干拓
・銚子から利根川を上ったところの砂州の形が 3 図で異なっている。元禄図の砂州は短く、天保図では砂州が長く伸びている。また、天保図のうち紅葉山本では砂州の先に中州の島がもうひとつ描かれている。
・江戸湾に描かれた島状の干潟は、天保図では陸地となっている。
・飯沼が岡田郡の南西部に描かれ干拓前の様子を示している。飯沼は天保図では全面的に干拓され新田・村となっている。

・手賀沼についても干拓前の様子を示している。天保図では周囲が干拓され新田となり、相馬郡から印旛郡の飛び地となっている。新田分布の比較については別紙画像参照。

＊城・陣屋
３図比較の一覧を参照。城は白地方形で描かれ、城名と城主名が記されている。陣屋の記載はなく、陣屋の置かれた村が他の村と同様の村形で記される。このほか、古城跡・御殿跡が、山の描写の上から「〇〇古城跡」あるいは「御殿跡」として記載されている。建物や石垣などの描写はなく、記載数は天保図に比べ少ない。
＊建物
建物の描写は、寺社と関所の記載において確認された。

＊村形
村の記載は、村形に村名と石数が「〇〇村　〇〇石余」と記され、村名表記や石数は郷帳記載とは必ずしも一致していない。村名に片仮名ルビが振られているものが複数確認されたが、天保図紅葉山本にはルビは見られない。また村名の変更があったものについて、村形の右肩に「古者〇〇村」との記載が見られるものが複数確認され、これも天保図紅葉山本には見られない。また、村形に淡墨の当たり線が確認された。天保図の村形は印を使用したようだが、元禄図の場合、枠線は手書きによるものだろうか。

＊河岸
・記載された河岸は向下河岸と小堀河岸のみであり、ともに村形で記載されている。
・関宿城下の向下河岸村形は「向下川岸　四拾弐石余」と記され、江戸町とは石数を別個に記されている。
・小堀河岸の村形は「井野村之内　小堀川岸」と記され、石数の記載はなく、付近に井野村の村形が確認できる。小堀河岸の記載は天保図には見られない。
・河岸のうち、村名で確認できるものが、利根川筋では、戸頭／布施／取手／布佐／布川／安食／田川／西大須賀／滑川／金江津／神崎／押砂／結佐／佐原／津宮／小見川／阿玉川／石出／小舟木／野尻／高田／松岸／飯沼、印旛沼筋では、平戸／船尾／岩戸／北須賀が記載されている。

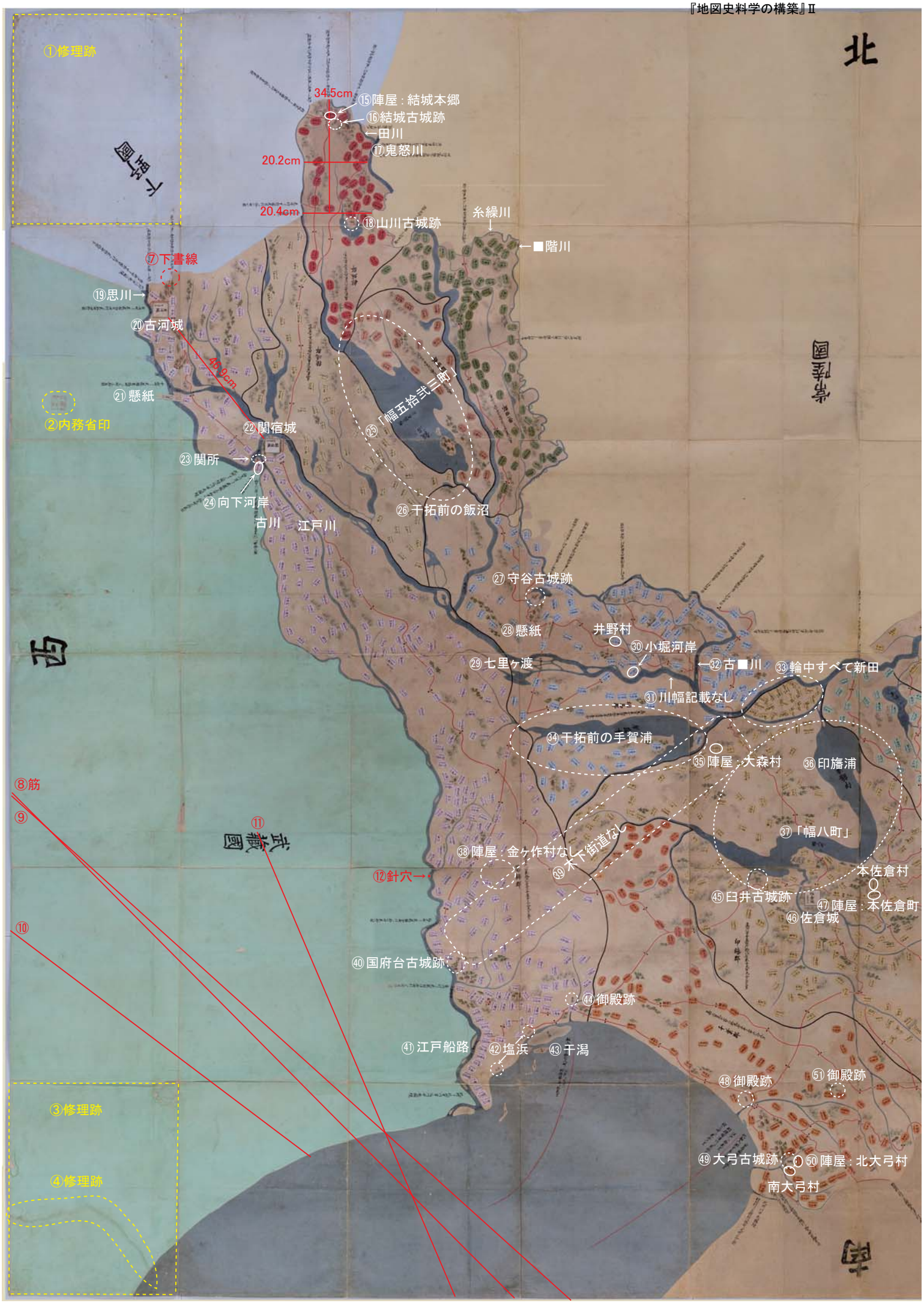
＊一里塚
一里塚の描き方も天保図とは異なり、天保図が円を真っ黒に塗りつぶしているのに対し、元禄図では濃墨で塗られた円の周囲に薄墨の円が確認された。薄墨の円で場所の辺りをつけた上で、濃い墨を塗ったものであろうか。一里塚は、ほぼ 18 センチ間隔（一里を 6 寸に換算）で記されている。【佐藤別紙所見】

（文責：田中）

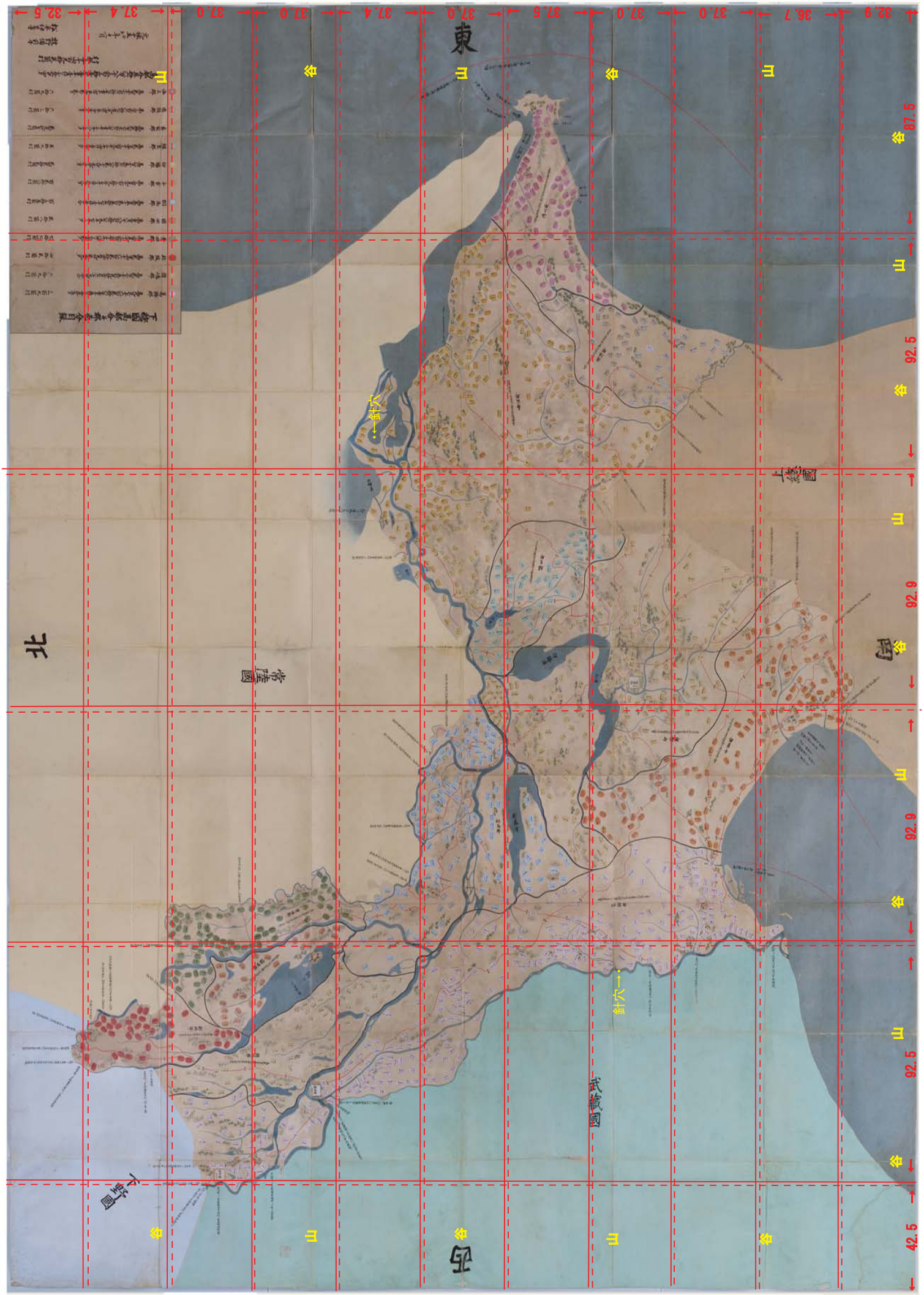
元禄下総国絵図所見データ

番号	表記	分類*	見出	内容	比較対象	所見記載者
		*A(黄) 保存・伝来:蔵書印、破損、修復／B(赤) 絵図作成手順:裏打ち、針穴、マスキング／C(黒/白) 画像・文字記載情報:ほかの絵図との比較、変色も含む				
1	修理跡	A	修理	裏に修理跡あり		橋本
2	内務省印	A	印	印あり「内務省文庫印」		橋本
3	修理跡	A	修理	裏に修理跡あり		橋本
4	修理跡	A	修理	破れの修理跡あり		橋本
5	修理跡	A	修理	裏に修理跡あり		橋本
6	修理跡	A	修理	破れの修理跡あり		橋本
7	下書線	B	下書	街道の途切れている箇所に黒色線あり		佐藤(杉本メ
8～11	筋	B	筋	ヘラではない筋あり		橋本
12	針穴	B	針穴	針穴あり		橋本
13	針穴	B	針穴	針穴あり		橋本
14	角筆	B	角筆	角筆か		橋本
15	陣屋:結城本郷	C	城陣屋	結城城の記載なし。結城本郷6913石		国木田・横山
16	結城古城跡	C	城陣屋	結城古城跡		田中
17	鬼怒川	C	河川	鬼怒川幅五十間		小関
18	山川古城跡	C	城陣屋	山川古城跡		田中
19	思川	C	河川	思川幅壱町五拾八間	天保	田中
20	古河城	C	城陣屋	古河城　松平伊豆守		国木田・横山
21	懸紙	C	懸紙	葛飾郡川妻村付近に懸紙あり		国木田・横山
22	関宿城	C	城陣屋	関宿城　牧野備前守		国木田・横山
23	関所	C	城陣屋	関宿城近くに関所あり		国木田
24	向下河岸	C	河岸	向下川岸を村形で記載「向下川岸42石」。天保図にもあり。	3図とも	田中
25	幅五拾弐三町	C	河川	幅五拾弐三町		小関
26	干拓前の飯沼	C	干拓・新田	干拓前の飯沼	天保	国木田・横山
27	守谷古城跡	C	城陣屋	守谷古城跡		田中
28	懸紙	C	懸紙	相馬郡戸沢村付近に懸紙あり		国木田・横山
29	七里ヶ渡	C	河川	七里ヶ渡。天保図には「川幅三町四拾五間」との記載と北側に「舟渡」あり。	天保	田中
30	小堀河岸	C	河岸	小堀河岸を村形で記載「井野村ノ内小堀川岸」（石数記載なし）。天保図にはなし。付近に井野村あり「井野村1530石」	天保	田中
31	川幅記載なし	C	河川	川幅記載なし。天保図には「川幅三町弐拾間」との記載あり。	天保	田中
32	古■川	C	河川	古■川幅壱町弐拾四間	天保	田中
33	輪中すべて新	C	新田	輪中すべて新田		田中
34	干拓前の手賀	C	干拓・新田	干拓前の手賀沼	天保	国木田・横山
35	陣屋:大森村	C	城陣屋	大森陣屋の記載なし。大森村1069石		国木田・横山
36	印旛浦	C	干拓・新田	印旛沼	天保	田中
37	幅八町	C	河川	幅八町	天保	田中
38	陣屋:金ヶ作村なし	C	城陣屋	金ヶ作陣屋の記載なし。金ヶ作村の記載なし。		国木田・横山
39	木下街道なし	C	郡境・道川筋	木下街道の記載なし。	天保	（杉本メモ）
40	国府台古城跡	C	城陣屋	国府台古城跡		田中
41	江戸船路	C	河川	江戸江船路■八町		田中
42	塩浜	C	干拓・新田	塩浜		国木田・横山
43	干潟	C	干拓・新田	干潟。天保図では陸地となっている。	天保	田中
44	御殿跡	C	城陣屋	御殿跡		田中
45	臼井古城跡	C	城陣屋	臼井古城跡		田中
46	佐倉城	C	城陣屋	佐倉城　戸田能登守		国木田・横山
47	陣屋:本佐倉町・本佐倉村	C	城陣屋	本佐倉陣屋の記載なし。本佐倉村375石、本佐倉町112石		国木田・横山
48	御殿跡	C	城陣屋	御殿跡		田中
49	大弓古城跡	C	城陣屋	大弓古城跡		田中
50	陣屋:北大弓村・南大弓村	C	城陣屋	生実藩陣屋記載なし。北大弓村1256石、南大弓村975石、北大弓村之内生実郷100		国木田・横山
51	御殿跡	C	城陣屋	御殿跡		田中
52	山描写	C	台地表現	利根川沿いに山の描写あり。		田中
53	山灰色	C	山色	灰色		田中
54	陣屋:高岡村	C	城陣屋	高岡藩陣屋の記載なし。高岡村528石		国木田・横山

番号	表記	分類	見出	内容	比較対象	所見記載者
55	湖岸の表現	C	郡境・道川筋	常陸国と香取郡の境界で、ぼかす箇所が3図で異なる	天保	田中
56	国境描写	C	郡境・道川筋	常陸国と香取郡の境界で、ぼかす箇所が3図で異なる	天保	田中
57	湖岸の表現	C	郡境・道川筋	常陸国と香取郡の境界で、ぼかす箇所が3図で異なる	天保	田中
58	砂洲	C	干拓・新田	砂州の形が3図で異なる	天保	田中
59	湖岸の表現	C	郡境・道川筋	常陸国と香取郡の境界で、ぼかす箇所が3図で異なる	天保	田中
60	色料	C	色料	香取郡福田村の村形のみ褐変が顕著。		荒井
61	陣屋:小見川村	C	城陣屋	小見川藩陣屋の記載なし。小見川村300石		国木田・横山
62	小見川河岸	C	河岸	此所銚子并常陸国鹿嶋辺ヨリ之船着	天保	田中
63	山灰色	C	山色	灰色		田中
64	山茶色	C	山色	茶色		田中
65	山灰色	C	山色	灰色		田中
66	山茶色	C	山色	茶色		田中
67	山茶色	C	山色	茶色		田中
68	山灰色	C	山色	灰色		田中
69	利根川	C	河川	利根川幅八九町深四五間	天保	田中
70	山灰色	C	山色	灰色		田中
71	陣屋：飯沼村	C	城陣屋	高橋藩陣屋の記載なし。飯沼村582石		国木田・横山
72	山茶色	C	山色	茶色		田中
73	崖描写	C	台地表現	屏風ヶ浦海岸の岩の描写が絵画的。	天保	降旗
74	陣屋：飯岡村	C	城陣屋	高力氏陣屋の記載なし。飯岡村268石		国木田・横山
75	街道なし	C	郡境・道川筋	九十九里浜沿いの道の記載なし。	天保	杉本
76	陣屋:太田村	C	城陣屋	太田安中藩陣屋の記載なし。太田村1243		国木田・横山
77	色料	C	色料	匝瑳郡高村の村形のみ色が鮮明。		国木田・横山
78	塩浜	C	干拓・新田	塩浜		国木田・横山
79	山描写	C	台地表現	香取郡南部に山の描写あり。		田中
80	山茶色	C	山色	茶色		田中
81	陣屋:多古村	C	城陣屋	多古藩陣屋の記載なし。多古村855石		国木田・横山
82	多古古城跡	C	城陣屋	多古古城跡		田中
83	山描写	C	台地表現	匝瑳郡南西部に山の描写あり。		田中
84	国境描写	C	郡境・道川筋	上総国と匝瑳郡の境界で、飛地表現あり。「此所ヨリ宮川村迄両国飛地有之、国境不相知」	3図とも	田中


北
①修理跡
34.5cm
⑮陣屋：結城本郷
⑯結城古城跡
一田川
⑰鬼怒川
20.2cm
20.4cm
⑱山川古城跡
糸繰川
←■階川
⑦下書線
⑲思川→
⑳古河城
45.9cm
㉑懸紙
②内務省印
㉒関宿城
㉓関所
㉔向下河岸
古川
江戸川
「幅五拾弐間」
㉕
㉖干拓前の飯沼
㉗守谷古城跡
㉘懸紙
井野村
㉚小堀河岸
㉙七里ヶ渡
←㉜古■川
㉝輪中すべて新田
㉛川幅記載なし
㉞干拓前の手賀浦
㉟陣屋：大森村
㊱印旛浦
㊲「幅八町」
⑧筋
⑨
⑪
㊳陣屋：金ヶ作村なし
㊴木下街道なし
⑫針穴→
㊺臼井古城跡
㊻佐倉城
㊼陣屋：本佐倉町
本佐倉村
⑩
㊵国府台古城跡
㊹御殿跡
㊶江戸船路
㊷塩浜
㊸干潟
㊽御殿跡
㊿御殿跡
③修理跡
④修理跡
㊾大弓古城跡
50陣屋：北大弓村
南大弓村

北
⑤裏面修理跡
⑥破れ修理跡
⑬針穴
⑭角筆
57 湖岸の表現
58 砂洲
59 湖岸の表現
55 湖岸の表現
56 国境描写
54 陣屋：高岡村
53 山灰色
60 色料
61 陣屋：小見川村
62 小見川河岸
63 山灰色
64 山茶色
65 山灰色
66 山茶色
67 山茶色
68 山灰色
69 利根川
70 山灰色
71 陣屋：飯沼村
72 山茶色
73 崖描写
74 陣屋：飯岡村
75 街道なし
76 陣屋：太田村
77 色料
78 塩浜
52 山描写
79 山描写
80 山茶色
81 陣屋：多古村
82 多古古城跡
83 山描写
84 国境描写
上総國

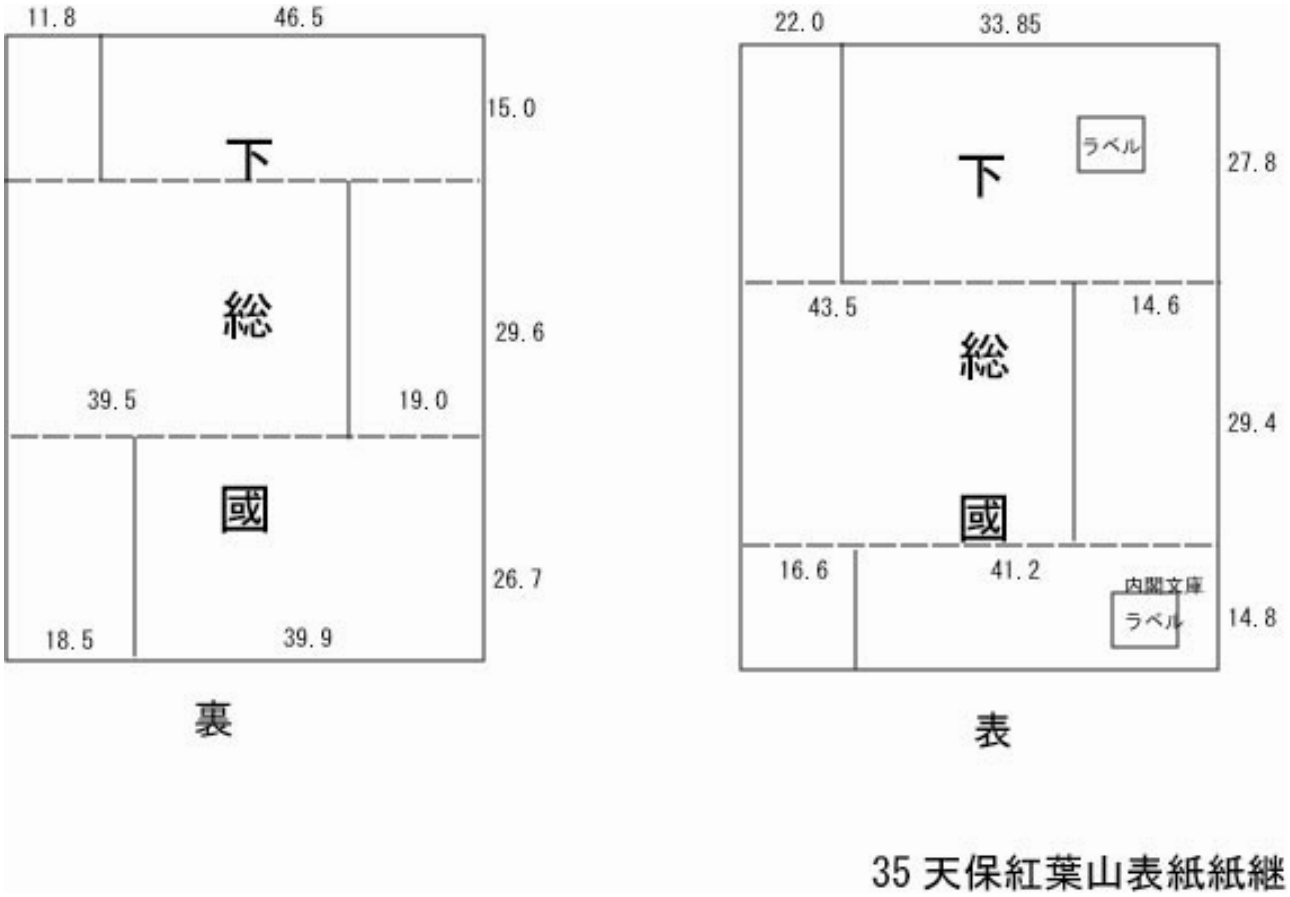

東
西
北
南
武蔵國
針穴一
32.9
36.7
37.0
37.6
37.0
37.0
37.4
37.0
37.0
37.4
32.5
87.6
92.5
92.9
92.9
92.5
42.5

２．天保下総国絵図・紅葉山本調査所見　　特 083-0001-35　　小関悠一郎

調査日：2009 年 1 月 14・15 日
架蔵番号：特 83-0001-35
図名：(表紙)「下総國」　　466×362cm

① 紙拵え

○料紙
　簀の目：無　　布目：無　　触った感触：硬い　　光沢：有
　つるつる感：有　表面なめらか
　紙種：雁斐系か
○折返：有、幅 1.5cm（縦横とも）折り返しが有り、その上からさらに裏打ちしている。
○裏打ち：棒継ぎ。総裏打している。裏打は楮紙か。
○表紙：有。表紙簀の目：有　　○蔵書印：有「内務省／文庫印」



②地図情報

Ａ：保存・伝来

・絵図は、折りたたみ幅南北 59.0(下 57.6) cm×東西 71.5cm で畳まれて保管され、折りたたんだ際の厚みは 3.0cm である。また、表紙の角に摩滅がみられる。(図参照)

・らい紙上に、南を上にして捺された「内務省／文庫印」の蔵書印がある。

・絵図表紙に２つのラベルが貼られている。上方のものは 9.1×7.8cm、下方は 5.0×3.6cm である。

・折り目について、蛇腹は折り目の少ない方から折りたたんだ方が傷みは少ないが、この図の場合、折り目の多い方（長辺）から折っている。長辺８折、短辺５折の蛇腹折。一般に折り目が奇数になる場合は、なんらかの印付けが必要となり、何らかの痕跡が残ると考えられる。

・相馬・豊田郡境を通り、葛飾郡を二分するように貼られたピンクのテープ（細い帯状の紙）があるが、貼られた年代・貼付目的は不明。近辺の水戸道などの道・水路や境界に一致するものは見られない。

Ｂ：絵図作成手順

＊推定される作成手順

・①本紙１枚１枚に肌ウラ。②紙継ぎ。③総裏その１。④耳折り。⑤総裏その２。⑥描画・彩色。※③～⑤計３回以上。

＊色料

・天保期の両図は、同じ色を出そうとしているが、色料の配合割合が異なるなどの原因で、色調が異なっている。色指定は、ヴィジュアルな手段（色見本など）ではなく、文字などで行った可能性がある。

・現代的な意味での絵師の担当は樹木・建物。海・地面塗りわけは、マスキングなどもっと工芸的手法によるものか。

＊耳折

耳折部分に彩色がはみ出していない理由は、最後の裏打ちまで終了後絵を描いたからか、或いは描画後に端を断ったからか、両方考えられる。

＊マスキング

境界をぼかした彩色にしている箇所がある。海はマスキング。河口から手書き。

＊針穴

・虫損による穴が折り目に沿って東西方向に並んでいる。針穴と紛らわしく、要注意。

・図の中央に 24cm×36cm グリッドの針穴がある。針穴は紙のウラまで貫通している。絵を描いたあと施したものか（穴の内部に絵の具はない)。針穴は基本的に表側の色を塗った上から空けられている。

・弁柄色が外によれている箇所有り。彩色後につけられた針穴のためか。

C：画像・文字記載情報

＊国境・郡境

「此所より宮川村迄両国飛地有之国境不相知」「北利根川巾六拾間程、中央国境」

＊文字

・文字は勘定所本と比べ、丁寧だが稚拙である。

・川幅・河川交通の航路の情報が詳しく書き込まれている。

＊彩色

・山は箇所によって茶色・灰色に塗り分けられている。

＊村形

・森川内膳正居所の墨線が勘定所本に比べて約 0.5mm 細い。

・関宿城と古河城の間の距離 44.9cm（元禄図の同位置は 46.9cm）。

＊描写

・小島・崖など、所々絵画的な描写が見られる。

（文責　小関）

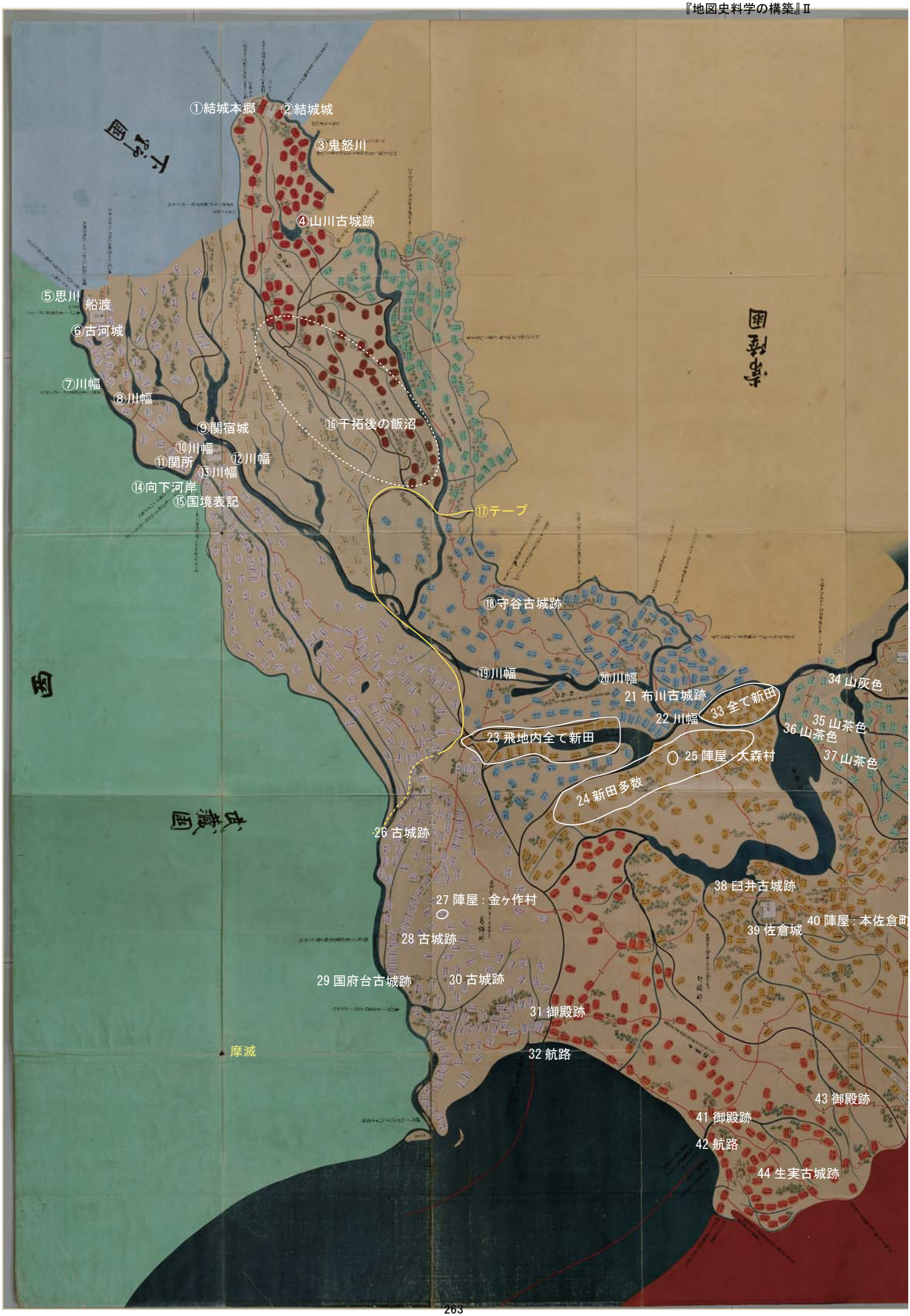
特083-0001-35天保下総国絵図（紅葉山本）所見項目

「番号」は所見図に対応

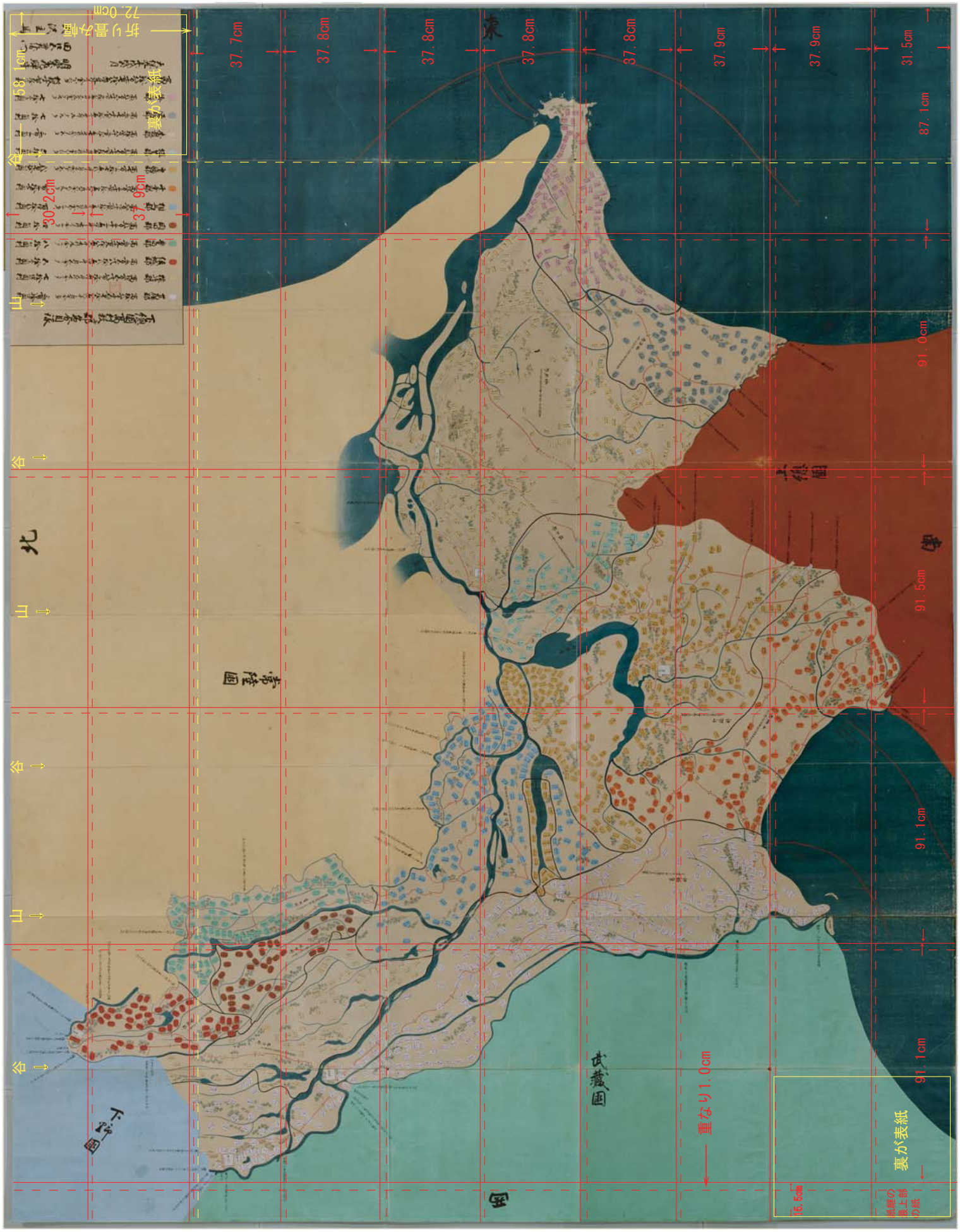
分類　A（黄）　保存・伝来：蔵書印、破損、修復／　B（赤）　絵図作成手順：裏打ち、針穴、マスキング／　C（黒／白）　画像・文字記載情報：ほかの絵図との比較、変色も含む。「表記」は所見地図上の表記を、見出しは報告書本文における小見出し（本文には特筆すべき項目のみを掲載）をさす。

番号	表記	分類	見出し	内容	比較対象	記載者
1	結城本郷	C	城・陣屋	城に接する四角形の中に町名表記		小関
2	結城城	C	城・陣屋	結城本郷と接して表記		小関
3	鬼怒川	C	文字	鬼怒川　川幅壱町二間		小関
4	山川古城跡	C	城・陣屋	山川古城跡		田中
5	思川	C	文字	思川　幅四拾三間		小関
6	古河城	C	城・陣屋			小関
7	川幅	C	文字	利根川幅三町三拾四間		小関
8	川幅	C	文字	川幅壱町拾五間		小関
9	関宿城	C	城・陣屋			小関
10	川幅	C	文字	川幅壱町拾四間		小関
11	関所	C	関所	関宿城近くに関所あり	元禄・勘定所	国木田・田中
12	川幅	C	文字	川幅四町四拾四間		小関
13	川幅	C	文字	川幅四拾間		小関
14	向下河岸	C	河岸	向下河岸42石（関宿城近く）。天保紅葉山本で唯一の河岸記載。		田中
15	国境表記	C	文字	関宿付近に「此所平地国境」		小関
16	干拓後の飯沼	C	干拓	干拓後の飯沼	元禄	小関
17	テープ	A	郡境	郡境線の上からピンクの細い紙テープ状の物を貼っている。		梅田
18	守谷古城跡	C	城・陣屋	守谷古城跡		田中
19	川幅	C	川幅	川幅三町四拾五間		小関
20	川幅	C	川幅	川幅三町二拾間		小関
21	布川古城跡	C	城・陣屋	布川古城跡		田中
22	川幅	C	文字	利根川　幅二町五十弐間		小関
23	飛地内すべて新田	C	新田	印旛郡の飛地内すべて新田（22箇所）		田中
24	新田多数	C	新田	印旛郡内の一部新田多数（38箇所）		田中
25	陣屋:大森村	C	村形	大森村高千六拾弐石余。		横山
26	古城跡	C	城・陣屋	古城跡		田中
27	陣屋:金ヶ作村	C	城・陣屋			小関
28	古城跡	C	城・陣屋	古城跡		田中
29	国府台古城跡	C	城・陣屋	国府台古城跡		田中
30	古城跡	C	城・陣屋	古城跡		田中
31	御殿跡	C	城・陣屋	御殿跡		田中
32	航路	C	文字	船入潮干拾七八町（江戸迄五里、相模国三浦迄拾弐里）		小関
33	全て新田	C	新田	印旛郡内の一部すべて新田（20箇所）。すべての新田名の右肩に「布鎌」の2文字あり。		田中
34	山灰色	C	彩色	山を灰色に彩色している。		田中
35	山茶色	C	彩色	山を茶色に彩色している。		田中
36	山茶色	C	彩色	山を茶色に彩色している。		田中
37	山茶色	C	彩色	山を茶色に彩色している。		田中
38	臼井古城跡	C	城・陣屋	臼井古城跡		田中
39	佐倉城	C	城・陣屋			小関
40	陣屋：本佐倉町	C	城・陣屋			小関
41	御殿跡	C	城・陣屋	御殿跡		田中
42	航路	C	文字	「江戸迄七里／相模国浦賀迄拾八里／同国三崎迄弐拾四里」「此船入潮干五六町」「安房国勝山迄弐拾壱里」		小関
43	御殿跡	C	城・陣屋	御殿跡		田中
44	生実古城跡	C	城・陣屋	生実古城跡		田中
45	境界描写	C	描写	境界をぼかす。		田中
46	国境	C	文字	此所より東銚子口迄川中央国境		小関
47	境界描写	C	描写	境界をぼかす。		田中
48	境界描写	C	描写	境界をぼかす。		田中
49	付箋	A	付箋	「佐倉」と書かれた付箋、２箇所に貼付。		小関
50	山灰色	C	彩色	山を灰色に彩色している。		田中
51	山灰色	C	彩色	山を灰色に彩色している。		田中
52	山灰色	C	彩色	山を灰色に彩色している。		田中
53	航路	C	文字	鹿嶋江之船路三里　川幅三町弐拾間		小関
54	古城跡	C	城・陣屋	古城跡の描写。		田中
55	山灰色	C	彩色	山を灰色に彩色している。		田中
56	山茶色	C	彩色	山を茶色に彩色している。		田中
57	山灰色	C	彩色	山を灰色に彩色している。		田中
58	山表現	C	描写	山を表現している。		田中
59	多古古城跡	C	城・陣屋	多古古城跡		田中
60	山表現	C	描写	山を表現している。		田中
61	付箋	A	付箋	付箋が3つある。（写真撮影）「高徳」と書き込み。後年に添付		橋本
62	色料弁柄	B	彩色	上総部分の彩色は弁柄によるか。		荒井
63	国境	C	文字	此所より宮川村迄両国飛地有之国境不相知		小関
64	国境	C	文字	北利根川巾六拾間程、中央国境		小関
65	水路の向き	C	水路の向き	水路の向き		田中
66	山茶色	C	彩色	山を茶色に彩色している。		田中
67	山灰色	C	彩色	山を灰色に彩色している。		田中
68	山灰色	C	彩色	山を灰色に彩色している。		田中
69	古城跡	C	城・陣屋	古城跡		田中
70	境界描写	C	描写	境界をぼかしている。		田中
71	航路	C	文字	此所銚子并常陸国鹿嶋辺よりの船有		小関
72	小島	C	描写	小島の描写。勘定所本にはみられない。	勘定所	田中

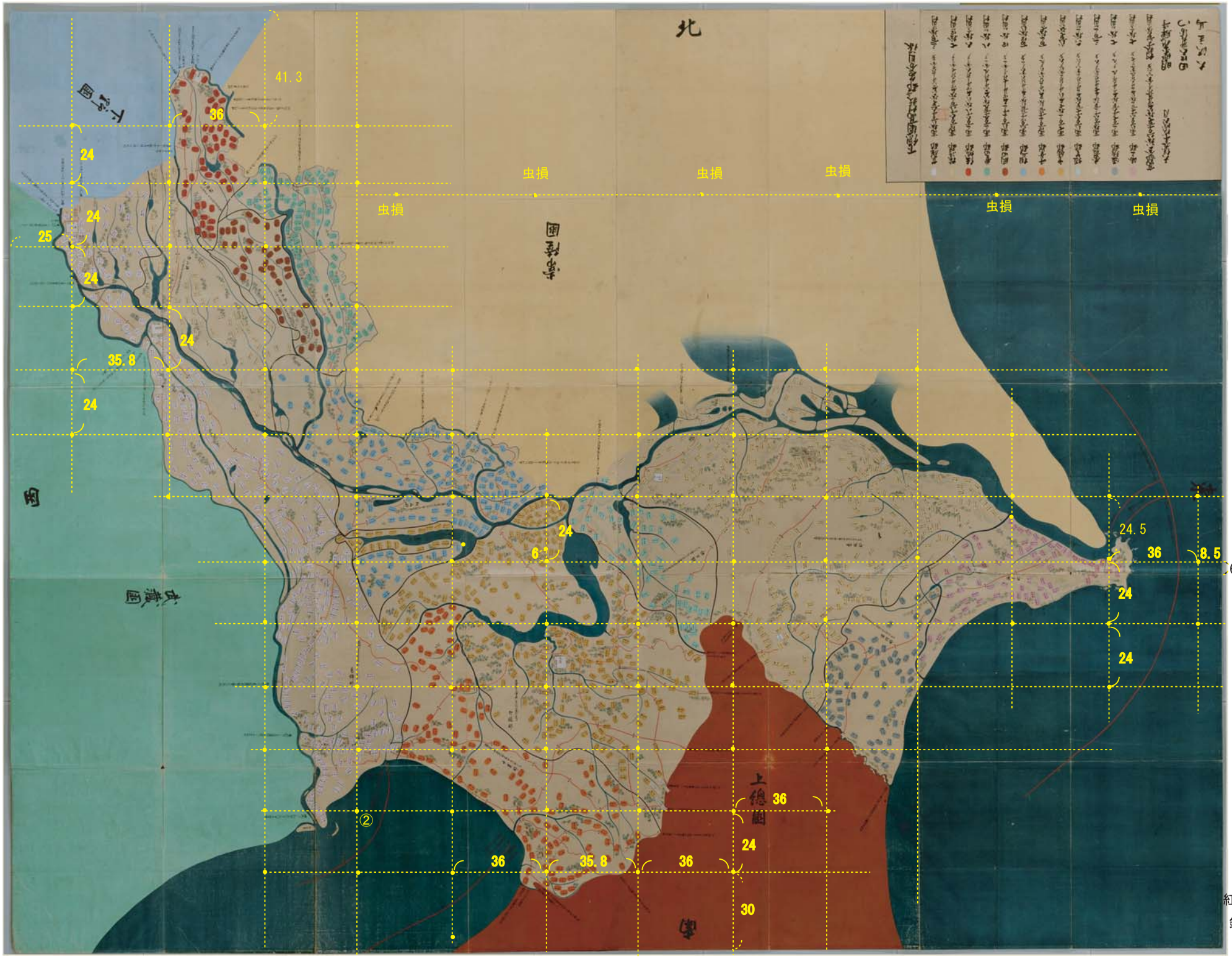
73	山茶色	C	彩色	山を茶色に彩色している。		田中
74	古城跡	C	城・陣屋	古城跡		田中
75	付箋	A	付箋	「佐倉」と書かれた付箋、２箇所に貼付。		梅田
76	古城跡	C	城・陣屋	古城		田中
77	山表現	C	描写	山を表現している。		田中
78	山灰色	C	彩色	山を灰色に彩色している。		田中
79	崖表現	C	描写	崖を絵画的手法で表現している。		田中
80	航路	C	文字	銚子口より常陸国那珂湊迄拾里		小関
81	航路	C	文字	潮干満共に船入		小関
82	航路	C	文字	大口幅弐拾間		小関
83	航路	C	文字	小口幅拾間		小関
84	航路	C	文字	銚子口より安房国小湊迄弐拾里		小関
85	水深	C	文字	今宮村前川幅拾四町　水深五尋		小関
86	地形	C	文字	胎内くくり		小関
87	蔵書印	A	蔵書印・ラベル	らい紙上に、南を上にして捺された「内務省／文庫印」の蔵書印がある。		橋本
88	摩滅	A	摩滅	表紙の角が摩滅している。		橋本
89	海川彩色	B	彩色	海・川が赤外下で暗くみえる。		荒井
90	へら跡	B	へら跡	へら跡ヵ。		橋本


①結城本郷
②結城城
③鬼怒川
④山川古城跡
⑤思川
船渡
⑥古河城
⑦川幅
⑧川幅
⑨関宿城
⑩川幅
⑪関所
⑫川幅
⑬川幅
⑭向下河岸
⑮国境表記
⑯干拓後の飯沼
⑰テープ
⑱守谷古城跡
⑲川幅
⑳川幅
21 布川古城跡
22 川幅
23 飛地内全て新田
24 新田多数
25 陣屋：大森村
26 古城跡
27 陣屋：金ヶ作村
28 古城跡
29 国府台古城跡
30 古城跡
31 御殿跡
32 航路
33 全て新田
34 山灰色
35 山茶色
36 山茶色
37 山茶色
38 臼井古城跡
39 佐倉城
40 陣屋：本佐倉町
41 御殿跡
42 航路
43 御殿跡
44 生実古城跡
摩滅

北
87蔵書印
88摩滅
89海川彩色
90ヘラ跡か
45境界描写
46国境
47境界描写
48境界描写
49付箋
50山灰色
51山灰色
52山灰色
53航路
54古城跡
55山灰色
56山茶色
57山灰色
58山表現
59多古古城跡
60山表現
61付箋
42御殿跡
62色料弁柄
上總國
63国境
64国境
65水路の向き
66山茶色
67山灰色
68山灰色
69古城跡
70境界描写
71航路
72小島
73山茶色
74古城跡
75付箋
76古城
77山表現
78山灰色
79崖表現
80航路
81航路
82航路
83航路
84航路
85水深
86地形


37.7cm
37.8cm
37.8cm
37.8cm
37.8cm
37.9cm
37.9cm
31.5cm
87.1cm
91.0cm
91.5cm
91.1cm
91.1cm
重なり1.0cm
16.5cm
裏が表紙
紙継ぎの重なり部の紙
武蔵国
下野国
上野国
常陸国
東
北
山
谷
山
谷
山
谷
裏の表紙
折り畳み幅
72.0cm
58.1cm
30.2cm
37.9cm

35
天保
紅葉山
針穴


北
虫損
虫損
虫損
虫損
虫損
41.3
36
24
24
25
24
24
35.8
24
24
6
24.5
36
8.5
6.5
24
24
上総国
36
24
36
35.8
36
30
②

3．天保下総国絵図・勘定所本調査所見　　特 083-0001-36　梅田千尋

調査日：2009 年 1 月 14・15 日
架蔵番号：特 83-0001-36
図名：(表紙)「下総國」　　477×375 cm

①紙拵え
○料紙
　簀の目：無　布目：無　触った感触：硬い　光沢：無　　つるつる感：有り表面滑らか
　紙種：斐紙系統の紙（雁斐紙あるいは間似合紙か）
○折返：有、幅 1.2cm（縦横とも）
○裏打ち：有
○表紙：有、表紙は簀の目、ラベル有、全体的に湾曲／大きさ:縦 78.5×62.2cm
○蔵書印：有、絵図表面の端に「内務省文庫印」
図名：裏表紙に「下総」

②地図情報
Ａ：保存・伝来
・絵図は、折りたたみ幅南北 62.8cm×東西 79.2cm で畳まれて保管、折れ目に沿って摩滅箇所がみられる。また、剥落・亀裂箇所も見られる。
・絵図作成後、鉛筆で引かれた升目線有り。
・絵図表面の端に「内務省文庫印」が有る。他の図についても確認が必要である。

Ｂ：絵図作成手順
＊推定される作成手順
・①本紙１枚１枚に肌ウラ、②紙継、③総ウラその１、④総ウラその２（③・④は最低二回以上)、⑤描画彩色、⑥耳折

＊色料
・天保期の両図は、同じ色を出そうとしているが、色料の配合割合が異なるなどの原因で、色調が異なっている。（常陸の色料：勘定所は濃い黄土色、紅葉山は淡い黄土色など。）色指定はヴィジュアルな手段（色見本など）ではなく、文字などで行った可能性がある。
・「下野国」部分の色料は藍の上をピンクで塗り直して、紅葉山本と同色から別色に塗り替えている。胡粉混色が剥落し、下の藍が覗く。文字の変更のための塗りなおしと思われるが、赤外線では下層の墨書は見えず。

＊描画
現代的な意味での「絵師」による描画（絵画的手法）は樹木・建物に限られる。海・地面の塗りわけなどの工程は、マスキングなどもっと工芸的手法によって描かれたと考えられる。村形などにスタンプが使用された形跡がある。また、江戸川沿い国境飛地に後で書き足した部分がある。
＊マスキング
　湖岸などのぼかした彩色にマスキングが用いられている。本紙のめくれた部分は、マスキングの際の刃物傷によるものか。
＊針穴
・36×24cm 格子の升目状に針穴分布。格子の大きさは、天保薩摩と同じ。
・格子には２パターン有。仮にＡ・Ｂとする（図では A の穴を□、A グリッドを実線で表記し、B の穴を○、B グリッドを点線で表記）。Ａは中央部に集中するのに対し、Ｂは地図の端にも分布。また、Ａは裏まで抜けていないが、Ｂは裏まで抜けている。

Ｃ：画像・文字記載情報

＊（　）内は地図の番号と対応

＊国境・郡境
川を挟む国境については、川の両岸に複雑な塗りわけあり。河川流路変更に伴う国境の変化、国境未確定部分をあらわしたものと思われる。
川を挟む国境飛び地塗りわけ、「川崎村飛地」など有り。国境画定地域は「此所より＊上須田村迄平地或川中央国境」、未確定地域は「此所より宮川村迄両国飛地有之国境不相知」と記し、二色塗りわけで表現。
＊湖岸の描写
勘定所本では霞ヶ浦に続く部分（下総図では途中までしか書かず、対岸は常陸国になるところ）を、ぼかして描写している。紅葉山では見られない描写である。
＊木・山の描写
　松の記載は、佐倉炭と関係があると推測されるが、勘定所本／紅葉山本で樹木の描かれている位置に違い有り。実際の薪炭供給を踏まえているかどうか不明。
　山の色を茶色と灰色で塗りわけている箇所も有るが、その意図も不明。牧に関する記述は見られないが、牧の位置などとの関係も考えられる。いずれも、現時点では明確な書き分けの意図を読み取れない。
樹木は何人かの絵師が分担している。
＊河岸
・河岸として記載されているのは(6)向下河岸のみ。江戸町とは異なる村形内に「向下河岸高四十二石余」と記される。小見川村・佐原村など、明和・安永期に河岸吟味の対象となった他村には「河岸」記載無し。代表的河岸のみ記載か。

＊交通

・紅葉山本では描かれていない一里塚が描かれた地点もある。(60)

・主な渡し場には川幅の記載有。（19）七里ヶ渡「川幅三町四拾五間」、(20)小貝川「幅壱町弐拾四間」(21)新利根川

・海上の航路については朱線を引いて方向を示す。但し、寒川村からの航路「安房国勝山迄弐拾壱里･･･」(58)など、途中で朱線が消滅。荒川上の航路（行徳からの「江戸江航路三里八町」）は朱線無し。

＊城・陣屋描写

城は白地方形で描かれ、城名と城主名が記されている。「古河城　土井大炊頭」など。陣屋は、a)「高岡村」（村型小判型）に隣接して「井上筑後守居所」（白色四角）と記載された高岡藩陣屋・多古陣屋・小見川陣屋の例、b）陣屋記載なく「大森村」村形のみの場合に分かれる。その基準は不明。このほか、古城跡・御殿跡が、山の描写の上から「〇〇古城跡」あるいは「御殿跡」として記載されている。

＊建物

建物の描写は、寺社と関所の記載において確認された。非現実的な建築形態で実際の景観を反映しているとは考えにくい。

（文責　梅田）

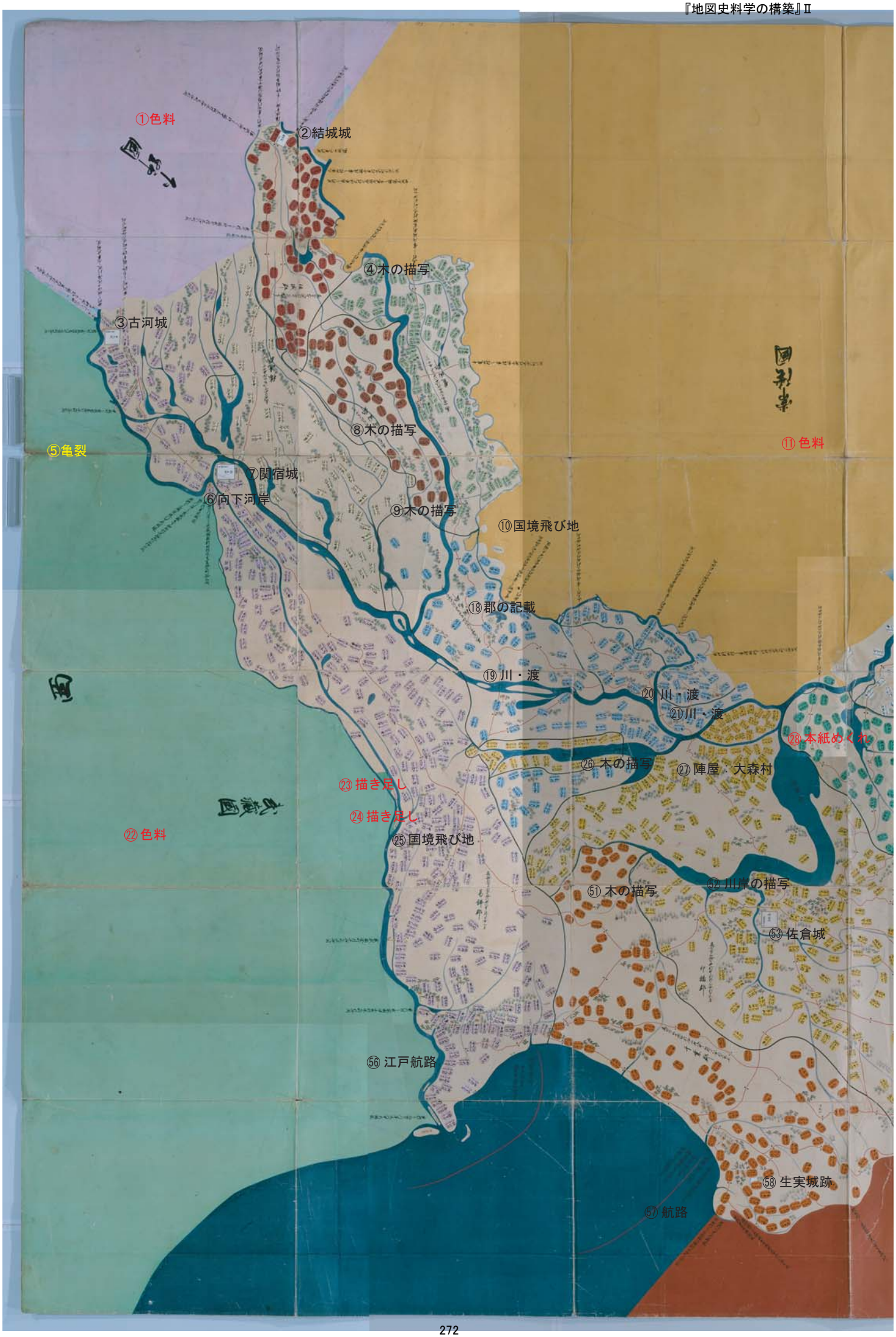
特083-0001-36天保下総国絵図（勘定所本）所見項目

「番号」は所見図に対応する。

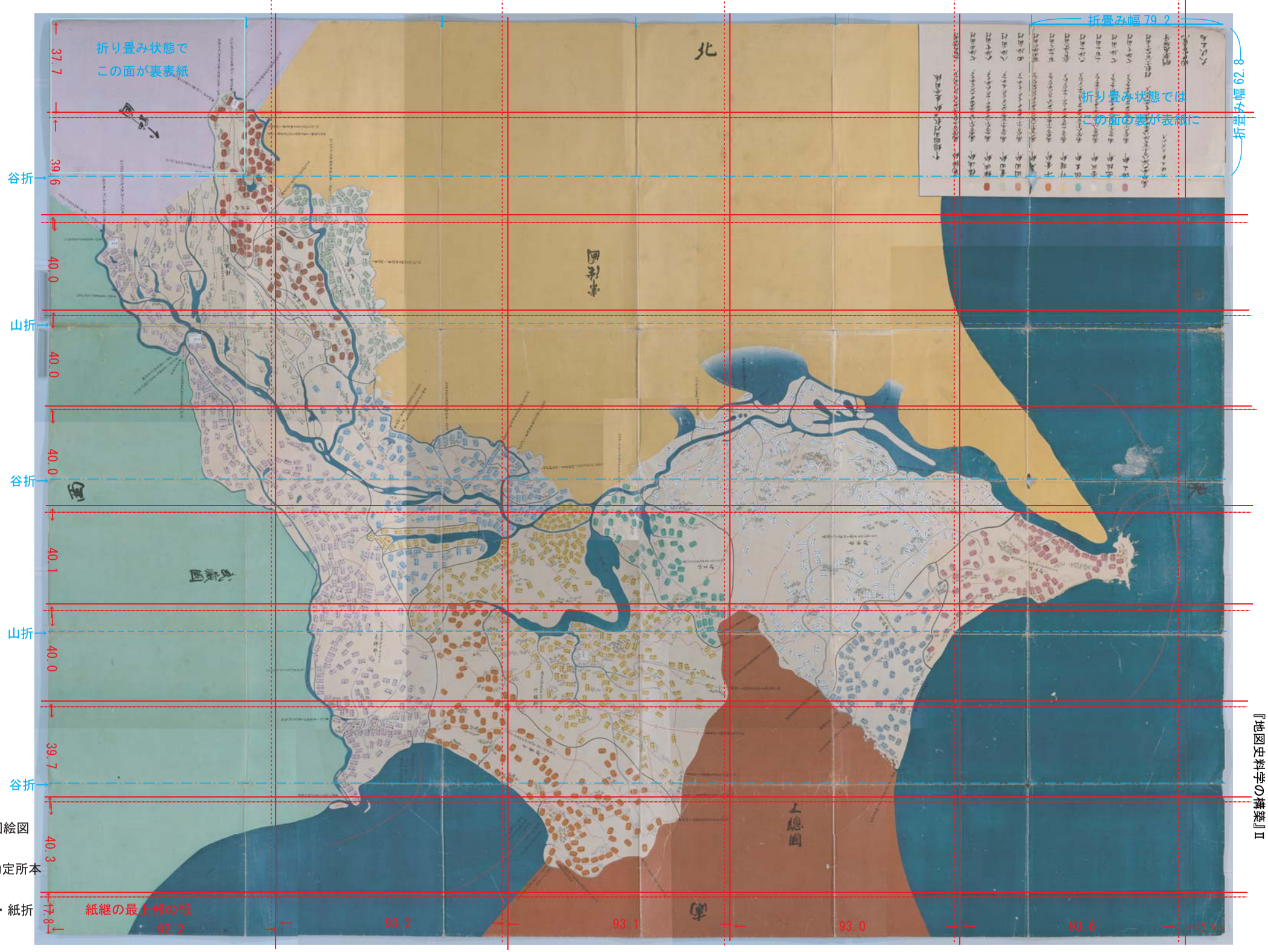
分類＝A（黄） 保存・伝来：蔵書印、破損、修復／B（赤） 絵図作成手順：裏打ち、針穴、マスキング／C（黒/白） 画像・文字記載情報：ほかの絵図との比較変色も含む。「表記」は所見地図上の表記を、見出しは報告書本文における小見出し（本文には特筆すべき項目のみを掲載）をさす。

番号	表記	分類	見出し	内容	比較対象	記載者
1	色料	B	色料	下野の色料：藍の上をピンクで塗り直し。紅葉山本と同色から別色に塗り替えている。胡粉混色が剥落し、下の藍が覗く。文字の変更か？赤外線では下層の墨書見えず。勘定・紅葉の文	紅葉山では藍のまま	荒井
2	結城城	C	城・陣屋描写	結城城：左「結城本郷六千八百拾四石余」（赤色四角縦3.8×横1.6cm）・右「結城城　水野日向守」（白色四角縦3.8×横2.9cm）		横山・国木田
3	古河城	C	城・陣屋描写	「古河城　土井大炊頭」（白色（胡粉）一辺4.3cmの正方形）		横山・国木田
4	木の描写	C	木・山の描写	木の位置の紅葉山本との違い	紅葉山	田中
5	亀裂	A	亀裂	亀裂		梅田
6	向下河岸	C	交通	向下河岸高四十二石余		田中
7	関宿城	C	城・陣屋描写	「関宿城　久世大和守」（白色四角縦5.1×横4.5cm）、関宿城近くの国境に「御関所」有		横山・国木田
8	木の描写	C	木・山の描写	紅葉山本では描かれている木が無い。	紅葉山	田中
9	木の描写	C	木・山の描写	紅葉山本では描かれている木が無い。	紅葉山	田中
10	国境飛び地	C	国境・郡境	川を挟む国境飛び地塗りわけ、「川崎村飛地」。「此所より＊上須田村迄平地或川中央国境」		梅田
11	色料	B	色料	常陸の色料：勘定所は濃い黄土色、紅葉山は淡い黄土色。		荒井
12	湖岸の表現	B	マスキング	マスキングしてぼかす。紅葉山本ではぼかさずに描写	紅葉山	田中
13	湖岸の表現	B	マスキング	マスキングしてぼかす。紅葉山本ではぼかさずに描写	紅葉山	田中
14	湖岸の表現	B	マスキング	マスキングしてぼかす。紅葉山本ではぼかさずに描写	紅葉山	田中
15	摩滅	A	摩滅	摩滅		梅田
16	摩滅	A	摩滅	摩滅		梅田
17	印	A	印	内務省印あり		梅田
18	郡の記載	C	国境・郡境	紅葉山本と異なる「相馬郡」の書き込み位置	紅葉山	田中
19	川・渡	C	交通	七里ヶ渡　川幅三町四拾五間、紅葉山本には記載無し	紅葉山に無	小関
20	川・渡	C	交通	小貝川　幅壱町弐拾四間、紅葉山本には記載無し	紅葉山に無	小関
21	川・渡	C	交通	新利根川、紅葉山本には記載無し	紅葉山に無	小関
22	色料	B	色料	武蔵の色料：白緑が紅葉山に比べて黄ばんでいる	紅葉山	荒井
23	描き足し	B	描き足し	後に描き足した部分（絵の具の状態が異なる）	紅葉山に無	小関
24	描き足し	B	描き足し	後に描き足した部分（絵の具の状態が異なる）	紅葉山に無	小関
25	国境飛び地	C	国境・郡境	右岸の一部が緑に塗られている（武蔵国との国境不明地域か）	紅葉山	田中
26	木の描写	C	木・山の描写	木無し	紅葉山	田中
27	陣屋:大森村	C	城・陣屋描写	大森陣屋：「大森村　高千六拾二石余」（村型小判型黄色縦3.3×横2.35cm）陣屋記載無し		横山・国木田
28	本紙めくれ	B	マスキング	本紙のめくれ有。マスキング時の刃物傷で本紙の表層のみが		荒井
29	山茶色	C	木・山の描写	山茶色。山の彩色＝茶色と灰色に塗りわけか		田中
30	山茶色	C	木・山の描写	山茶色。山の彩色＝茶色と灰色に塗りわけか		田中
31	山茶色	C	木・山の描写	山茶色。山の彩色＝茶色と灰色に塗りわけか		田中
32	陣屋:高岡村	C	城・陣屋描写	高岡藩陣屋、「高岡村」（村型小判型）に隣接して「井上筑後守居所」（白色四角）		横山・国木田
33	山灰色	C	木・山の描写	山灰色。山の彩色＝茶色と灰色に塗りわけか		田中
34	水路描写	C	交通	水路の方向（相違点は？）	紅葉山	田中
35	山茶色	C	木・山の描写	山茶色。山の彩色＝茶色と灰色に塗りわけか		田中
36	香取社	C	建物	寺院建築と描き分けている？		梅田
37	木の描写	C	木・山の描写	木有り	紅葉山	田中
38	陣屋:小見川村	C	城・陣屋描写	小見川村　小見川陣屋（白色四角縦2.3×横2.4cm）は八日市場村の村型と重なる。		横山・国木田
39	小島	C	小島	紅葉山は小島無し	紅葉山	田中
40	摩滅	A	摩滅	摩滅		
41	山灰色	C	木・山の描写	山灰色。山の彩色＝茶色と灰色に塗りわけか		田中
42	山灰色	C	木・山の描写	山灰色。山の彩色＝茶色と灰色に塗りわけか		田中
43	山茶色	C	木・山の描写	山茶色。山の彩色＝茶色と灰色に塗りわけか		田中
44	山茶色	C	木・山の描写	山茶色。山の彩色＝茶色と灰色に塗りわけか		田中
45	山茶色	C	木・山の描写	山茶色。山の彩色＝茶色と灰色に塗りわけか		田中
46	村型手書	C	村型手書	親田村？高＊百拾六石余、村型小判型縦3.3×横2.4cm、村型		横山・国木田
47	陣屋:飯岡村	C	城・陣屋描写	高力氏陣屋：「飯岡村　高二百六拾八石余」（村型小判型縦3.3×横2.35cm）陣屋記載無し		横山・国木田
48	崖表現	C	崖表現	崖の表現が絵画的		田中
49	小島無し	C	小島	紅葉山本に描かれている小島が一つ描かれていない	紅葉山	田中
50	陣屋:飯沼村	C	城・陣屋描写	飯沼村高八百拾石余、村型小判型縦3.3×横2.4cm、陣屋の記		横山・国木田
51	木の描写	C	木・山の描写	木有り	紅葉山	田中
52	河岸の描写	C	交通	川岸のライン	紅葉山	田中
53	佐倉城	C	城・陣屋描写	「佐倉城　堀田備中守」（白色四角縦4.6×横4.55cm）		横山・国木田
54	陣屋:多古村	C	城・陣屋描写	「多古村　高千三百三拾四石余」（村型小判型縦3.4×横2.4cm）に隣接して「松平相模守居所」（白色四角縦2.35×横2.35cm）、山の図像に「多古古城跡」と記載		横山・国木田

55	陣屋:太田村	C	城・陣屋描写	太田村千二百九拾三石（村型小判型縦3.3×横2.4cm）、陣屋の記載は無し。		横山・国木田
56	江戸航路	C	交通	「江戸江航路三里八町」	紅葉山に無	小関
57	航路	C	交通	航路が途中で消える「此船入潮千五八町安房国勝山迄弐拾壱里、江戸迄七里、相模国浦賀迄拾八里、同国三崎迄弐拾四里」		梅田
58	生実城跡	C	城・陣屋描写	「北生実村高千三百四拾七石余、森川内膳正居所」山の図像に「生実古城跡」とあり。村型（小判型）朱色、陣屋白（四角）の上に重なる形で着色。山の図像は紅葉山本より表現が豊か。	紅葉山では山に「古城跡」	横山・国木田
58	城の描写	C	城・陣屋描写	紅葉山本では城部分が白く塗られていない	紅葉山	田中
59	木の描写	C	木・山の描写	木無し	紅葉山	田中
60	一里塚	C	交通	紅葉山には無い一里塚有	紅葉山	田中
61	国境描写	C	国境・郡境	「此所より宮川村迄両国飛地有之国境不相知」二色塗りわけで		梅田
62	摩滅	A	摩滅	摩滅		
63	色料	B	色料	上総の色料：弁柄か		荒井
64	海の色料	B	色料	海・川部分、赤外線下で明るい		荒井
全体	鉛筆升目	A	鉛筆升目	鉛筆で南北・東西方向に線有り。近代に引かれた緯線・経線か？東西に引いた線は迷い線多く、先に引いたものか？【佐藤		梅田
全体	鉛筆升目	A	鉛筆升目	各国から提出させた切絵図の幅という可能性はないか？		
全体	作成手順	B	作成手順	推測される手順：①本紙1枚1枚に肌ウラ、②紙継、③総ウラその1、④総ウラその2（③・④は最低二回以上）、⑤描画彩色、		荒井
全体	作成手順	B	作成手順	描画・彩色終了後に耳折をして完成させる		荒井
全体	描画	B	描画	村形はスタンプ		降旗


①色料
②結城城
③古河城
④木の描写
⑤亀裂
⑥向下河岸
⑦関宿城
⑧木の描写
⑨木の描写
⑩国境飛び地
⑪色料
⑱郡の記載
⑲川・渡
⑳川・渡
㉑川・渡
㉒色料
㉓描き足し
㉔描き足し
㉕国境飛び地
㉖木の描写
㉗陣屋：大森村
㉘本紙めくれ
㊿川岸の描写
51木の描写
53佐倉城
56江戸航路
57航路
58生実城跡

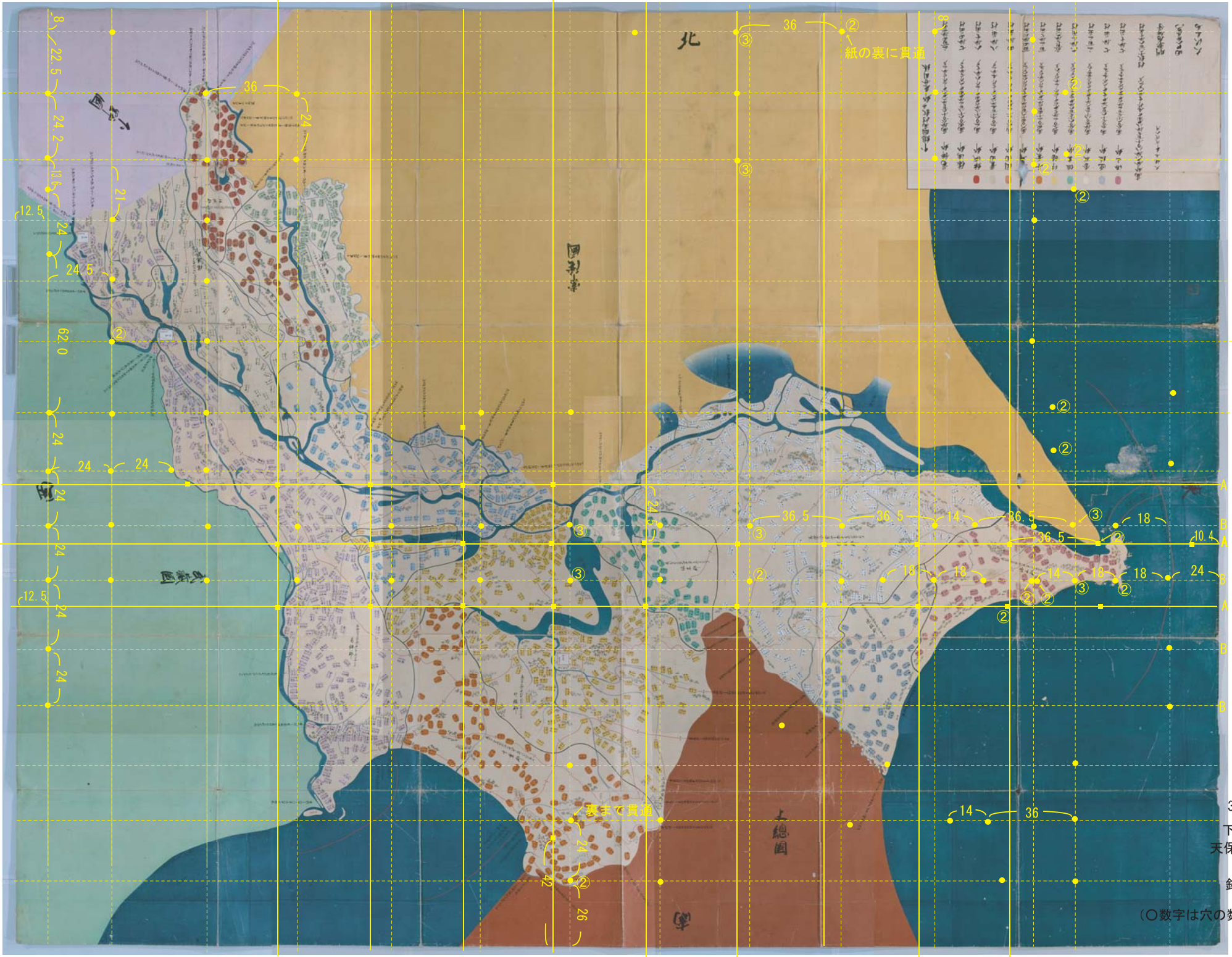
北
⑮ 摩滅
⑰ 内務省印
⑯ 摩滅
⑬ 湖岸の表現
⑭ 湖岸の表現
⑫ 湖岸の表現
㉞水路描写
㉟山茶色
㉝山灰色
㊲木の描写
㊴小島
㊱香取社
㊳陣屋：小見川村
㊵ 摩滅
㉜陣屋：高岡村
㉛山茶色
㊶山灰色
㉙山茶色
㊷山灰色
㊸山茶色
㉚山茶色
㊹山茶色
㊿陣屋：飯沼村
㊺山茶色
㊻村型手書
㊾小島無し
㊽崖描写
㊼陣屋：飯岡村
55陣屋：太田村
54陣屋：多古村
60一里塚
61国境描写
59木の描写
62 摩滅
上總國
64 海の色料
63 色料



下総国絵図

天保勘定所本

紙継・紙折



『地図史料学の構築』II本

36
下総国絵図
天保勘定所本

針穴箇所

（○数字は穴の数を示す）